



利用される方一人一人を尊重する精神を貫き、利用される方が心身ともに健やかに生活され、又その能力と特性に応じて自立した日常生活を営むことが出来るよう支援します。そのために支援の多様化を図り、より支援内容を深めています。

PROFILE

運営母体:株式会社リーフエッチ

併設事業所:あまみ相談支援センター(障害児・者の計画相談)

管理者/田中基次氏

社名の「リーフエッチ」とは、サンゴ礁と外洋との接点のこと。多様で豊かな生命を育む場であり、画一的な価値を求めるのではなく多様性を大事にしたいという願いを込めて命名。農学部出身だが水生昆虫が専門だったため農業知識はなかった。奄美大島で唯一のWRAP(元気回復行動プラン)のファシリテーターとして当事者のためのワークショップも開催。

事業概要

就労継続支援B型事業所 14名・自立訓練(生活)6名の多機能型施設外就労チーム(マンゴー・バジル・たんかん等の農家へ援農)
※農業チームは労働対価として作物を頂き、それを活かした自社開発製品の製造を行っている。

・食品加工チーム:ジェラートやスムージーの製造販売。

・ホテル清掃チーム:週3回程度ホテルの客室清掃等。

・飲食店チーム:奄美大島の郷土料理である「鶏飯(けいはん)」を地元産の天日干し無農薬米等を使って提供する「ゆらい処あまみん」を運営(現在休止中)。

・クラフトチーム:

利用者の趣味につながる木工・編み物・染織・革細工・園芸など

・パソコンチーム:

固定給+歩合制でスタート。楽天市場への出店準備中!

農福連携をはじめたきっかけ

農福連携を手段として、人と自然の関わりによってできた景観を活かした地域おこしや障害者の住みやすい地域づくりとしてのソーシャルファームを実現するため。

沿革(画期区分)

平成27年(2015) 田中氏が奄美移住

平成28年(2016) 株式会社リーフエッチ設立
多機能型事業所あまみん開設
利用者0名、スタッフ4名で開所。

平成29年(2017) あまみ相談支援センター開設
ジェラート販売サイト「Tropica Amami」をBASEで構築

令和2年(2020) 中日ドラゴンズとジェラート販売で合意、
次年度の事業展開を準備中



あまみんのマッチングストーリー

事業所で食品加工や飲食店営業ができれば、利用者の就労機会を内発化でき、事業所収入が訓練等給付金に依存しない経営ができると考え、事業所を新築する際には飲食店営業許可が取得できるように設計を行った。

地場作物中心の加工品(ジェラート等)などニッチな商品開発や、無農薬の国産パタフライピーの商品化などに取り組み、自立的な雇用機会創出を図っている。



あまみんのマッチングポイント

1 マッチングの形態

近隣農家の繁忙期の農作業を施設外就労として手伝い、対価をお金ではなく作物(規格外・廃棄品も含む)で頂くことで農家の負担を減らす。一方その作物をジェラートに加工販売し、付加価値を付けて利用者の賃金を稼ぐという仕組みを構築。

2 その発展過程

マンゴーやバジルの施設外就労などを受託。
→加工品製造。→パタフライピー(蝶豆)栽培
着手→地域産業を分析し、自社商品のジェラート開発。内発的な就労機会創出を目指す。

3 行政による財政的・人的支援

政策金融公庫融資、厚労省「地域雇用開発助成金」、中日ドラゴンズへ龍郷町とドラゴンフルーツ商品企画提案。地域振興局・立和田氏の協力。



4 農業関係団体・福祉関係団体との連携形態

龍郷町社会福祉協議会の理事に就任

5 マッチングの対象

近隣農家の施設外就労、自社農場生産、ジェラート製造等

6 コーディネーターの育成方法

利用者の障害特性に合わせた業務分担で、PCスキルの高い人にはテレワークも視野に入れた作業体系を構築し、スタッフに関しても過度な負担にならないようワークライフバランスを重視した人員配置を心がけている。

